

特集 スペシャリスト対談

致死率高い膵臓がん 2人 専門家が徹底解説



服部 優宏氏

社会医療法人北楡会 札幌北楡病院
消化器外科部長

西尾 正道氏

(独) 国立病院機構
北海道がんセンター名誉院長

がんの中で膵臓がんは悪性度の高い腫瘍で、患者の10年生存率が最も低いがんである。
今回は膵臓がんのスペシャリストである札幌北楡病院の服部優宏消化器外科部長との対談で、最も治療が難しいとされる膵臓がんを徹底解説する。

〈コーディネート 本誌・対馬優雅〉

20人に1人しか助からない

本誌 冒頭に、がんの現状について。
西尾 いますべてのがんの罹患者は年間で100万人を超えています。私が医者になった40年前には20万人でしたから5倍になっています。

特にホルモンが関係したがんが5倍になっています。乳がんは40年前で1万8000人だったのが、いまは9万5000人で、女性のがんでは最も罹患者率高く、11人に1人が乳がんになっています。

それは、ホルモン環境が変わっているからです。1つは米国の牛

膵臓は肝臓や腎臓同様、「沈黙の臓器」と呼ばれていて、なかでも膵臓は顕著なんです。

本誌 なぜ早期では症状が出にくいのですか。
西尾 沈黙の臓器というのは解剖学的な問題で、がんでも症状が出やすい部位とそうでない部位がある。たとえば喉頭がんの場合は声帯に腫瘍ができるから「声がかすれる」症状でI期でも見つけやすい。膵臓の場合には、膵臓のすぐ下に神経層があつて、そこにがん細胞が浸潤（*がん細胞が周囲の組織にしみ込むように広がること）して初めて背中

スペシャリスト対談

肉が女性ホルモン入りの餌を与えて飼育しているのが牛肉の生産性が1割高まり、米国の牛肉の消費量が40年間で5倍になっている。それにつれてホルモンに關係したがんも5倍になっている。

子宮がんで言えば、9割が子宮頸がんで1割が子宮体がんだったのが、いまでは6割が子宮体がんです。子宮体がんはホルモンに關

係したがんです。乳がんや子宮体がんのほかにも、卵巣がんや男性の前立腺がんもそうです。いわば食生活でホルモン環境が変わってがんの種類も変わりました。がんは生活習慣病というより、生活環境病と言えます。

服部 そうですね。
本誌 がんの中で膵臓がんの致死率が最も高い理由は。
西尾 最新の10年生存

率では、最も低いのが膵臓がん。4・9%と、20人に1人しか助からない。膵臓がんの致死率が高いのは、がんの悪性度が高いから。たとえばいま注目されている陽子線治療でも膵臓がんは難しいと言われています。膵臓がんは、がん細胞が腹腔内に散在する腹膜播種や他の臓器への遠隔

症状出にくい「沈黙の臓器」

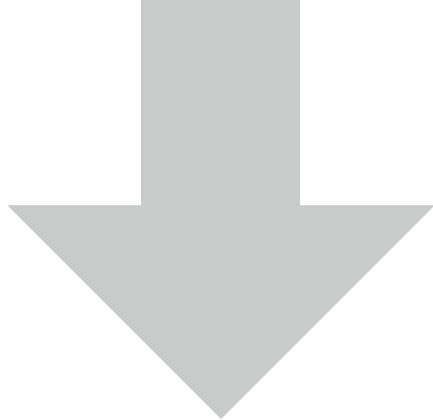
服部 その通りです。西尾先生は、膵臓がんの10年生存率が5%を切ると言われましたが、実はステージ「0」や「I」の早期の段階

でしかも腫瘍が1センチ以下で切除した症例なら、5年生存率が80%を超えていて、早期に見つ

転移が起きやすく、腹水がたまって命取りになってしまふ。がんが見つかった時には転移して手術できない人が結構多いんです。膵臓がんが治らない最大の理由は、発見が遅れることなんです。しかも放射線治療では限界があつて手術できる段階で早期に見つけなければならぬ。

けて手術できれば治療成績はいいんです。でも腫瘍が1センチ満たないものは症状が出にくく、早期発見が難しい。腹痛などの症状が出た時には、すでにがんの大きさが1〜2センチを超えて進行している場合が多い。

痛みが出てきます。でもその時には進行していて手術ができない状



続きは『**月刊クオリティ**』本誌を
ご覧ください。

▼ ご購読のお申し込みは ▼

○インターネットでのお申し込みはこちらから
<https://qualitynet.co.jp/koudoku/>

○お電話でのお申し込みはこちらから

TEL 011-644-0101

(9:00 ~ 17:30 土日・祝日をのぞく)